

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら

S-O-S vol. 175通信
H27年3月11日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

≪3月予定≫

- 3日 ひな祭り
- 10日 外食DAY
- 17日 小規模多機能型居宅介護運営推進会議
- 20日 避難訓練
- 31日 誕生日会

≪不定期行事≫

天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

≪利用状況案内板 (☆募集中 ★満員)≫

- ☆ナイス・ケア
- ☆ナイス・デイ (定員 10名/日)

日	月	火	水	木	金	土
7	8	6	7	7	7	8

- ☆ナイス・ホーム(登録者 19名/定員 21名)
- ☆愛宕の家(入居者 16名/定員 17名)
- ☆つしま紹介所 ☆ナイス・キッズ
- ★打太鼓

～上記を参考にご利用下さい～

食べる！／愛宕の家

以前にも書かせてもらったが、只今愛宕の家では腹ペコの方がさらに急増中。自分のものだけでは足りないといえ、何気なくテーブルに食べ物を置いておこうものなら、途端に食べてしまう。「私の目の前に置いてあるんだから私のものでしょ?」冷蔵庫を開けてしまう方や、部屋でコソッと食べる方など様々。食事の“おかわり”では物足りないらしい。Tさんが言う。「食べる事だけが楽しみなんだから～」。ごもつとも。私たちだって勤務後の食事やそのまた後の甘～いものが楽しみだ。やっぱり行き着くところは食べる事！生きる為に食べる。人間の本能なのか・・・そう考えれば残りの人生好きなものを食べさせてあげたいと思ってしまう。でも、太りすぎると良くないことは百も承知。健康管理と食の楽しみのバランスを大切にしながら生きることの喜びを工夫したい。(K・T)



学んだこと／ナイス・ケア

2月21日民介協(「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会の略)の主催する『全国事例発表会』がセンチュリーホールで開催されました。

私は、昨年7月からナイス・ケアの管理責任者兼サービス提供責任者として務めています。今更かもしれないが、責務の重要さと大変さに気付きました。訪問介護事業所の事例発表を聞くことで、少しでも実務に生かすことができたと参加しました。

事例で印象強かったのは、認知症の方との関わり方でした。

認知症の方がひとりで過ごしているとき、“誤食(食べ物ではないものを食べてしまう)の危険性”や“コップや調味料などの物を触って壊す危険性”等をリスクと捉え、“安全確保・危険回避”を優先に生活環境を変えてしまう(物を隠す等)ことは簡単だが、本来のヘルパーの役割は違う。訪問したときの様子を見て些細な変化に気付き、何に不安を感じ、何を望んでいるか等を察知・予測し、その人の有する能力を少しでも維持できるようなサービス内容に繋げることが大切だという内容でした。

最近、私はよく落ち込みます。その大半が私の思い込みで判断し物事を進めたと気付いた時です。本人や家族、ケアマネの想いを確認したにも関わらず、そこに込められた一歩深い意味や意図を感じ取る力が足りない自分を思い知らされています。(K・N)

昔遊び／ナイス・キッズ

久しぶりにコンクリートにかかしの絵を描いた。早速、『ケンケンパッ!』保育園年長さんの女の子は身軽にピョンピョン跳ねる。1年生の男の子は何度か立ち止まっては飛び跳ねる。5年生の男の子は何度やっても勢い余って飛び越える。大人の私は身が重くドスンドスンと地響きが・・・(笑)今時の遊び、DSやカードゲームの魅力(いやいや魔力というべきか・・・)に取り付かれ、めっきり外遊びが減っている現代のキッズ達。問題とされている子供の体力低下?運動能力の低下?を予防するためにも、『さあ、春だ!外で汗だくになって遊ぶぞ♪』(R・W)

実地指導／ナイス・ホーム

2月25日、地域密着型小規模多機能居宅介護事業所の実地指導を受けました。人員に関する書類(職員勤務表・出勤簿・職員履歴書や資格証明書・雇用契約や辞令・就業規則・給与台帳など)、運営に関する書類(サービス契約書・計画書・業務日誌・苦情などの記録・研修参加状況分かる書類・車両運行日誌・避難訓練の記録・身体拘束に関する記録など)、介護給付費に関する書類(請求書及び介護給付明細書・利用率等領収書の控えなど)・・・一つ一つ書類を確認されます。その表だって見えない書類の一つ一つは日々の業務の管理整頓が出来ていることで成り立っています。つまり、制度やその目的=書類=現場と繋がっています。書類が整理できていなければ現場の混乱にも繋がるでしょう。実施指導でその再認識ができることはありがたいことです。

加えて、小規模多機能型居宅事業所の実情や必要性を津島市職員の方に伝える場でもあると考えています。介護職増員が難しいため定員枠の上限である25名への変更も出来ていないのが現状。現場を知ってもらいながら、地域福祉にとって有意義な小規模多機能型居宅事業所が増えることを目標に一歩ずつ確実に前進していきたいものです。(Y・I)



担当薬剤師の変更／看護師

弊社と提携している薬局は2件。小規模多機能居宅介護ナイス・ホームを担当する地域の薬局と、住宅型有料老人ホーム愛宕の家を担当する名古屋の薬局。

今回は、愛宕の家を担当する名古屋の薬局の人事異動があり担当薬剤師が変更となりました。薬剤管理を依頼するようになって約2年。最初からどんな時も迅速丁寧そして臨機応変に対応してくれました。薬の使い方や効果など分かりやすいように様々なアドバイスも適切に受けられました。時には入居者や介護職員への説明にも協力を得ることができ、担当者会議へも可能な限り参加してもらいました。何より個々の入居者さんの様子をいつも気にかけて、常に入居者さんの状態と一緒に把握し一緒に悩んでくれました。そんな日々の関わりから自然と築き上げられてきた薬剤師及び薬局スタッフとの信頼関係。まさに多職種協働とはこのことだと思えたくらいチームとして機能し、ほんと安心してた矢先、急遽3月から担当薬剤師が変わると知らせを受けたのでした。

入居者さんの服薬管理にはとても気を使います。いくつもの病院から処方された薬を正確に内服してもらうこと、関わるスタッフ全てに分かりやすいよう薬剤セットされていること。多様な立場に立って物事を考える細かな配慮がとても重要です。新しい薬剤師さんがどんな方なのか楽しみでもあり不安でもあります。ただ、やるべきことは、入居者さんが穏やかに生活できること。それを守るためにも、今までの薬剤師さんと同じような対応をしてもらえるよう、十分にお願ひしていきたくと思っています。今まで支えてくださった薬局スタッフの皆様、本当にありがとうございました。(M・T)

≪編集後記≫

来月、4月1日は介護保険改正の日。知っていますか?未だはっきりしないこと目白押し!!弊社を含め、介護サービス事業所は制度の動きを知るために国や県や市町村からの通達等を、首を長くして待ちつつ紙面やインターネットなどに目を凝らし情報を獲得する日々。そして、今から4月1日までの超短期間で今後の経営方針を画策し、書類等の整備を行うことに力を尽くさなければいけないという実態。平成24年4月1日の法改正後、やっと慣れてきた今、更に大きく変化する介護保険制度。あまりにも急場しのぎで申し訳ないと思っているのか様々な苦肉の策が用意されているが、いったいどうなのか・・・。

介護サービスを利用するにも説明と同意と・・・書類の山。制度が変わるたびに単価も内容も制限範囲も変わる。介護事業所の職員ですら制度を覚えるのも伝えるのも大変なのに、高齢者やその家族に理解してもらおうのがどれほど困難なことなのか。何故に理解しやすい制度にならないものなのかと今から頭が痛い。(A・I)

小学1~5年生が4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚♪



利用者さんの或る言葉から・・・／ナイス・デイ

ある日、デイサービス終了後の送迎時、Tさんがおもむろに手を合わせ、『こんなに大事にしてもらってありがとうございます。』『・・・(何に対してのお礼)?』特に思い当たる事が無い。別のある日。70代、身体はいたって健康だが認知症で自称20代のAさんは、デイサービスにはお年寄りのお世話係りとして来ている(思っている)。他の利用者さんがAさんの白髪を見て、『髪が素敵な銀色だねえ。』と率直に話しかける。私は一瞬ドキとする。なぜって、20代のAさんがそんな事を言われたら気分を害すのではないかと・・・。しかし、Aさんは「そうなの。染めているの。」とサラッと答える。『最近はきれいに染まるんだねえ』と会話は続いている。

“認知症の方は時間旅行をしている”と何かの機会に聞いたことがある。

Tさんは嬉しかったことがあった時の事を思い出してお礼を言っていたのかもしれない。

Aさんはその時代に何らかの想いがあるからこそ20代に生きているのかもしれない。

認知症の方の対応は10人いたら10通りでとても難しい。何度も同じ行動や言葉を繰返され、丁寧に説明しても伝わらないし、理解してもらえないことは少ない。ついイライラしてしまうこともある。話題が噛み合っていないのにお互いに楽しそうに笑っていることもあるし怒り始めることもある。いったい、頭の中で何が起きているのかと不思議に思う。“病気”と分かっているにも理解に苦しむことも多々。

でも、自分も同じ人間なのだ。不意に頭をよぎります。これから先、年を重ね認知症になった時、分からないながらもどう対応してもらえたら幸せを感じ取れるのだろうか・・・。(S・H)

